全学年集合！ 本音の座談会

大学生は普段どのような生活を送っているのか？！今回は学生４人にZoomで集まってもらって自由に話してもらいました！思わぬ本音が聞けるかも……？

2回生　日本史コース
鎌谷（かまたに） 祐里（ゆり）さん
（文中では「か」）

1回生
日吉（ひよし） 健人（けんと）さん
（文中では「ひ」）

3回生　教育学コース
谷口（たにぐち） 太一（たいち）さん
（文中では「た」）

4回生　言語応用コース*
坂井（さかい） 思葉（ことは）さん
（文中では「さ」）

＊言語応用コースは現在、新規募集を停止しています。

Q. 出身地はどこですか？下宿の生活はどうですか？

た：僕は岡山県の倉敷市っていうところから来てますね。なので今下宿してます。

ひ：自分は宮崎県宮崎市の出身で、今も宮崎にいます。緊急事態宣言が出たので、帰って来ました。

か：私も下宿です。親に「遠隔やったら家帰る？」って言われたんですけど、家賃を払ってるのに住まないわけにはいかず、結局もう1年以上実家に帰っていないです。

さ：実家です。出身も大阪で、ずっと実家に住んでいます。通学時間はだいたい1時間ちょっとぐらいです。

司会（以下「司」）：下宿してみて、実家で暮らしてた時と違って大変だなと思う事はありますか？

か：今までは親に家事を全部してもらっていたので、自炊が続かないです。課題に追われてる時とかはどうしても近くのコンビニに頼りきりになっちゃったり、自炊したとしても、いつもメニューが偏ったり手軽にできるものになっちゃって、大変です。

た：今ゆりさんが言われてた家事とかもそうだし、やっぱりコミュニケーションが希薄になります。親とか兄弟がすぐそばにいるなら話し相手になるのですが、Zoomでもない限り、人とコミュニケーションをとる機会が少なくなってしまうことが下宿ならではだと思いますね。周りの人とはやっぱり大学で会ってた部分が大きいんですけど、そういうのもこの1年くらいはかなり減った気がしますね。

Q. 高校と大学の違いはなんですか？

ひ：色んなことが自由になりましたよね。中でも時間の使い方が自己裁量っていう部分が大きくなったかなという印象です。

か：お金の融通も利くようになりました。バイト代や親からの仕送りで、一度に大金が使えたりもして、お金の使い方は大きく変わりましたね。

た：勉強の面でも自由が増えましたね。高校と比べると、学ぶことを自分で決められるっていうのが大きく違います。特に文学部は、幅広い選択肢の中から自由にコースを選ぶことができますし。

司：入学してから大学のイメージって変わりましたか。

た：学生と教員の距離が近いっていうのは大学入ってから分かったことですね。結構一人一人に対して先生方がすごく手厚く指導してくださります。大学って言うとなんか大きい講義室にみんなで先生の話を聞くイメージが強かったんですけど、そればっかりじゃないんやなと思いました。

さ：高校生当時、大学生は暇人だって勝手なイメージを持ってたんですけど、意外と忙しくて。一番忙しかった時期だと、授業12コマに、サークルやりながら、バイト3つ掛け持ちして、後はオープンキャンパスの学生スタッフとかお手伝いさせてもらって……さらに自主的に勉強会みたいなことをやるとなると、もう一日がパンパンでした。

ひ：上回生との交流がそんなにないのかなと思ってたんですけど意外とあって、サークルにしても授業にしても支援機構もですけど、そこがすごく充実してるのは面白いなと思います。

か：日本史のことをがっつり勉強できるのは上回生からかなって思ってたんですけど、意外とそうでもなくて。1回生の時から選択肢が広い分、自分で割と歴史に時間割を寄せることは可能やったので意外と楽しいなって思いました。

さ：やっぱり文学部って本を読むような授業がメインなのかなと思ってたんですが、文学部案内冊子を読んでもらったら分かるとおり、全然そんなことないです。コースによっても先生の開講する授業によっても、学び方やその内容が全く違っていて。そういう幅広い研究をできるのが、お得感があって良いところだと思っています。

Q. コロナ禍で生活はどのように変化しましたか？

司：コロナ禍ならではで何か楽しいことってありましたか。

さ：コロナ禍ならではだと、おうち時間を使って友達と本を出版しました。小説書きたい友達を10人ぐらい集めて、編集や校正も自分たちでやって、お金を出して本にしてもらいました。こういうのって、時間があって、かつちょっと金銭的なゆとりもある大学生だからこそできることなのかなって思いました。

た：隙間時間が増えたのは間違いなくそうで、そういう時間を使って本を買って読むようになりました。古本屋に行って気になった本をかごに入れるっていうことをして。その時に、一冊は絶対にジャケ買いということで、全くタイトルに惹かれなかったとしても、見た目の良い本をなんでもいいから読んでみるようにしました。普段読む本はやっぱり専門の教育学のものに偏りがちなんですけど、そうやって選んだ本の方が意外と面白かったりしました。

司：コロナ禍を通じて何か変わったことはありますか。

た：海外と授業でZoomを繋ぐようになりました。プレゼンは院生さんと先生がしはるんですけど、海外の大学とZoom繋いで教育の問題についてお互いプレゼンしてお互いの教育文化を見合うという内容で。コロナ前だったら、来てもらうか、こちらから行かないと海外との交流ってできなかったと思うんですけど、Zoomというツールが世界的に浸透したことによって、逆に海外と近くなったっていうのはあると思います。

さ：時間の管理って、コロナになってからの方が大変なんじゃないかなって思ってて。コロナ前だったら、授業中にやって、授業後すぐに提出していた課題が、締め切りを設けられる形に変わってるので。何時からどの授業で、課題の提出はいつで……というのをつい間違えてしまわないように管理しなきゃいけないのが大変だと思います。

ひ：どちらかというと実家に帰ってきてからの方が大変です。元々自分の部屋がなかったので、今リビングと襖一枚隔てた部屋にいるんですけど、夜とかに喋ったら迷惑だし、喋りにくくて。だけどサークルの新歓は19時からとかになっちゃうんで、そこが大変ですね。

Q. サークルやアルバイトなどの課外活動はしていますか？

さ：もう引退しちゃったんですけど、よさこいサークルに入っていました。踊りを披露するため、全国のお祭りに遠征してました。大体週3ぐらいで活動していて、残りの週3でバイトしていました。バイトは、塾講とかをメインにやってたんですけど、派遣のバイトで甲子園やユニバで働いたこともあります。

た：1回生の時に数ヶ月フットサルのサークルに入ってたんですけど、周りの人の学部が違って話が合わず、やめてしまいました。今は支援機構以外の課外活動はしていないです。バイトは今メインでやっているのが小売業で、サラダをデパートで売ってます。

か：弓道部に入ってます。コロナの影響で今は活動してないですけど、それまでは大体週4回＋たまに日曜日に試合ですね。対面でやっていた時期もあるけど、やっぱりコロナの状況が厳しくなるにつれて、活動時間が大幅に減ったりして、それの繰り返しですね。バイトは部活の合間に入れてます。

ひ：サークルは今のところ3つ入ってます。バイトに関しては、いつお呼びがかかるか分かんないからこっちでも身動きが取れないし、今向こうに行くわけにはいかないっていう感じでするのは難しいですね。

Q. コースではどのように学んでいますか？

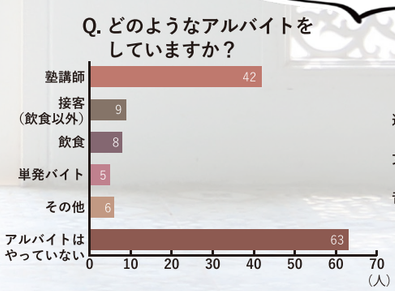
さ：言語応用コース*では、学生と先生が集まって行うディベート形式の授業があります。例えば、先生が皆にチョコレートを買ってきてくれて、それを食べた時に「美味しい」って言うか、「うまい」って言うか、そこにはどんな違いがあるのかってことを議論したり、他には「メロンパン」はなんで「パンメロン」じゃないんだろうって考えてみたり。こういう日常に紛れる不思議を考えるのが面白さだと思います。

た：教育学の授業では、プレゼンテーションやディベート、ディスカッションをなんとかオンラインでもしようと、先生方が試行錯誤してくださっています。その中で色々な意見を聞けることが面白いです。価値観が一人一人違うから、一つの物事に対して出てくる意見も違うんですよね。

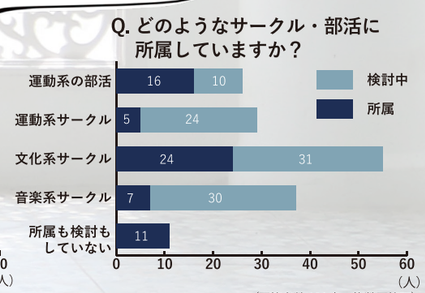
か：日本史、世界史ならではの授業があります。フィールドワークや遠足で、現地に行って勉強したり、和泉市と合同で市の歴史について調査をしたり、古文書を見たり。フィールドワークで調査して、持ち帰ったものをまとめて本として出す、という一年がかりの活動を毎年しています。今年はバーチャル遠足というものをするみたいです。

＊言語応用コースは現在、新規募集を停止しています。

1回生に聞いちゃいました！



（回答者数125名。複数回答可）



（回答者数124名。複数回答可）

芥川賞受賞作家の開高健（かいこう・たけし）は、市大文学部の前身である法文学部の出身。学情（図書館）には、彼の著作の特設コーナーが設置されています。

本冊子は、データ収集やデザイン考案、誌面作成など、文面の校正を除くすべてが学生によって作られています。また、本冊子制作の企画は、Literature Guidebook（文学部案内冊子）の頭文字をとって、LGと呼ばれています。